

ICT活用で地域を繋ぎ、地域 住民の笑顔のために協働する ～MedicalCareStationの活用で 思いも共有する～

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター
訪問看護ステーションさくら 管理者
畑中 勇二

訪問看護ステーションの管理者としての私の一日は、メールチェックすると同時に、MedicalCareStation：完全非公開型 医療介護専用SNS(以下MCS)をPCやタブレット、スマートフォンでチェックします。インターネット環境があれば、どのデバイスからでもログインができとても便利です。MCSは在宅医療介護の場面で多く使用されているICTツールで、なんと無料です。少し説明すると、患者毎に関係する医療機関や介護事業所のスタッフのLINEグループが作られるようなイメージです。参加しているスタッフへ対一のLINEのトークの様な機能や任意にグループも作成でき、工夫次第では色々な活用が可能です。いちき串木野市医師会では、2016年10月より他5医師会と同時に利用開始し、2019年4月1日現在、MCS参加施設数が52施設、医療介護スタッフは199名、登録患者数が178名となっており、訪問看護の利用者のほとんどが登録され、月の平均投稿数が1,930件と活用が進んでいます。医療情報の共有ももちろんですが、コミュニケーションツールとしての役割が大きいと感じています。

朝のMCSのチェックでは、夜間に緊急で訪問看護を受けている利用者の状況、主治医からのコメント、ケアマネジャーによる担当者会議の日程調整など

様々な投稿があり、利用者の状況や、連絡や対応が必要なタスクが発生していることがわかり仕事の段取りを行う上でも有用になっています。その他の投稿内容としては、バイタルサインや創傷の写真、ヘルパーさんが訪問時に発熱などはないがいつもと比べて元気がなく気になるなど、体調に関することや、通所リハビリテーションで花見に行っていて喜んでいたり、その時の笑顔の写真なども投稿され、利用者の体調や生活が見て取れます。また、ケアマネジャーが現在のサービスの利用状況から今後のサービスの増減などの意見を求められることもあります。このように投稿の内容について特に制限はかけていません。しかし、デリケートな内容や文章にすると誤解を招きそうな微妙なニュアンスが必要な内容などは投稿せずに電話連絡するようにしています。

在宅患者をサポートする際に、主治医のいる医療機関、ケアマネジャー、通所リハビリテーション・通所介護、ショートステイ、訪問看護、訪問介護、調剤薬局、歯科など、それぞれ違う事業所のスタッフが連携・協力しています。働く場所が違うスタッフ間の情報共有は何かと大変ですが、だからこそ情報共有が必要とも言えます。ツールとしては、電話もありますが一対一での共有で止まる可能性が高く、必要な人に必要なタイミングで情報を届けることが難しい現状です。ところがMCSを活用すると、ひとりの書き込みで、関連スタッフ全員に情報共有が可能です。ひとつの患者グループに参加しているスタッフが42名にもなる場合もあり、ICT活用により情報共有が可能になっています。

ICT活用の課題は、活用が活発になれ

ばなるほどそれが当たり前になってきますが、しかし、地域の医療機関や介護事業所で、まだ参加していない事業所もあり、参加している事業所と参加していない事業所で情報共有の手段を変える必要がでてきたということです。この課題に対して、地域のすべての事業所に参加して頂けるよう、在宅医療・介護連携推進室と協力して参加を促しています。また、MCSと同様のツールは他にもあります。どのツールも広域的に使用することができますが、隣接する地域でそれぞれ別のツールを使用すると、せっかく広域的に使えるツールであっても活かすことができません。医療・介護スタッフの情報共有は利用者にとっての利益になることは言うまでもありません。ICTツールを広域的に活用していくこともこれからの課題だと感じています。

私は、MCSの書き込みをするときには、その利用者に関わっているスタッフに知って欲しい情報を書き込みます。よって、その時にはその人を思い浮かべながら、大切に思いながら書き込みをします。また、他事業所のスタッフもそれに応えてくれる方々ばかりで、頼れる、よりグッと近い存在になりました。その人を大切に思い、色々な職種の方々と協力して利用者を支えていると実感する、そんな瞬間がとても心地よく、言葉の持つ力や、人への感謝の気持ちを感じます。連携は、良好なコミュニケーションから生まれてくることにも気づかせてくれたMCSに感謝をしています。MCSは、ツールとしての定着はできましたが、今後はさらに連携の輪が拡がり、必要な情報を必要な人に必要なタイミングでお渡しできるように地域の医療介護に関わるひとりとして支援していきます。その先に

ある笑顔のために、今日も仕事終わりにMCSをチェックして帰ります。